

九月の名迷言集

弥彦村

◆：五日から十五日まで開かれた九月定例会。九月の目玉は決算だが、最も質疑が集中したのが弥彦グランドホテル跡地の「おもてなし広場」。

十一日の常任委員会審査では、花井温郎氏（無所属）がおもてなし広場

での湯神社温泉の活用について質問した。花井氏は以前から湯神社温泉の活用を訴えており、今回は滞在型観光地づくりのために廃業した旅館を活用を訴えており、今回は滞在型観光地づくりのために廃業した旅館を活用を訴えており、今回

それに対して、花井氏は小林村長のアイデアに期待を寄せながら、「小林村長は頭がいいし、一本気だし、素晴らしい人だと思つ」と評価。褒め言葉か悪口か分からない「一本気」には傍聴者も大笑いで、小林村長も苦笑い。そのあとで「村長は頭のいい方だが、少し本気過ぎるところがあるように取れる」とやほりけなし、傍聴者はさら

に盛り上がり、小林村長も笑っていた。

◆：二十六、二十七、二十八の三日間、観山荘で開かれた平成二十九年度敬老の集い。二十六日の一回目で、あいさつに立った小林村長は現在の村財政の状況などについて報告したあと、脳血管疾患への注意を呼びかけた。

に盛り上がり、小林村長に掲載して、村民に注意を呼びかけている。

小林村長は広報の記事を掲げて、「脳血管疾患の死亡率は弥彦村が一番高い。ぜひ皆さん、これをご覧になって注意していただきたい。私の家もおやじがくも膜下で死んで、おふくろも脳卒中を二回起こした。最終的には違つ病気で死んだが、我が家は血管系で死ぬ。私も間違いなく血管系で亡くなると覚悟していること妙な覚悟を示した。健康で長生きするため

の取れた食事が必要として「弥彦村の死亡率が高いなんて、こんな不名誉なことはない。私も同じだが、ぜひ何とかしてやっつけていきたいと思つ。そう言いながら、私またはこをやめられなくて困ってます」と言つて笑わせた。

(次)

一杯の精進を、心を込めてサービスさせていただきます

精進 清水

三条市居島1-22-1 ☎33-0164